



「MADAM YOSHIE NAKAYAMA」油彩、1992年



「マスク」油彩、1991年

妻が永遠のモチーフ 衣装をまとった 華麗な女性の美しさを描く

中山忠彦さん
Tadahiko Nakayama
洋画家

1935(昭和10)年北九州市生まれ。上京後、洋画家・伊藤清永の内弟子として入門。54年日展に初入選。57年渋谷で独立。66年市川に転居。69年日展特選。70年から国府台に在住。72年の欧州旅行後、ヨーロッパのアンティークドレスを着た妻を描き人気を集め、優雅で清楚な女性像を描き続けている。日展、白日展を中心に作品を発表し、80年白日展内閣総理大臣賞受賞。96年日展内閣総理大臣賞受賞。現在は市川市収蔵美術作品展「市川の美点と線」に出展。現在は市川市収蔵美術作品展「市川の美点と線」に出展。現在は市川市収蔵美術作品展「市川の美点と線」に出展。

日本の現代洋画界のなかで最も人気の高い画家の一人中山忠彦さん。中山さんの自宅兼アトリエは国府台の静かな住宅地にあります。裏手には緑が生い茂り、円形の建物はまさに静寂さに包まれた洋館です。中にあるアトリエの天井は2階分の高さがあり、右手には回り階段。この広い空間はアトリエというより、まるでスタジオといった

ほうがふさわしいでしょう。床にはデッサン画が一面に広げられ、年代もののヨーロッパの人物、アンティークの家具や調度品、コスチュームを着たマネキン、彫刻、壁に掛かったタペストリー、骨董品の数々が真つ白な天井と壁に囲まれて、日常とは別の異空間に行んでいるようで、古典の時代のヨーロッパを彷彿させます。ここで中山さんは、大好きなクラシックをかけながら描きます。「雰囲気づくりと精神的なものを保つ」ということもあってクラシックをかけます。妻はバツハですが、私はモーツァルトやシューベルトを聞きます。だいたい昼間に描くことが多いですが、展覧会前には夜中の1時2時までになることもあります」。

実際に絵描きになろうと思ったのは高校に入るころ。「クラスのなかでも絵がうまい部類だったんでしょね」と中山さんはいいます。高校では美術部に所属していました。人物画を描くようになったのは、高校2年と3年のときに九州の日展巡回展で、のちに弟子入りすることになる伊藤清永先生の作品を見たのがきっかけになっています。頼まれると風景や花の絵を描いていますが、初期の頃からほとんどの作品は人物画で展覧会に出展。10年近く裸婦を描いていましたが、当時はモデル代を稼ぐのがたいへんだったといえます。

28歳の頃、妻の良江さんに出会います。そして、結婚を機に妻をモデルに描くようになり、それは現在も続いています。当時ヨーロッパ旅行で買ってきた古典のコスチュームを実際に使い、絵を描くようになります。

「100〜150年前の衣装は実際に着てみると、置いている状態とはかなり違います。絵を描く際、時には先に衣装から絵のイメージが浮かぶこともありますね。それに日本人とはからだの出来が違いますから、ヨーロッパの人体や形について学んだりもしました」

当時のドレスの微妙な色合いや布の質感までをリアルに描き出すこだわり



市川の文化人展 洋画家 中山忠彦・ 美の世界展

日時:9月15日(土)~9月24日(月)
午前10時~午後6時
(9月18日は休館
20日は午後8時まで、24日は午後3時まで)
場所:市川市文化会館 地下展示室
入場無料
同時開催 市川市収蔵美術作品展
ギャラリー対談
中山忠彦氏・瀧梯三氏
(9月15日午後2時より、同会場にて)
主催:市川市・市川市文化会館
お問い合わせ:市川市企画政策部文化課



がうかがえます。絵を描くときには妻に着てもらってそれで描けるかどうかをイメージするそうです。ルネッサンスの15〜16世紀、そして18〜19世紀に好きな作家が多いという中山さんのアンティークコスチュームのコレクションもまた有名です。地下にある衣装部屋には、ヨーロッパのアンティーク衣装や帽子、レースなどが300点以上あります。このなかから、あの名作が生まれているのでし

よう。中山さんが市川市に最初に住んだのは結婚後の昭和41年。妻の遠縁がいたことで縁があつて市川に住むことになりました。

「絵はアトリエのなかで描いているので市川とのかかわりはなかなかつかめませんが、ここで描いたということは、市川で生涯のほとんどの作品を描いたことになりましたし、この環境のなかで自然に出来上がったものですから愛着

は深いですね」と市川について語ってくれました。好きな場所はじゅん菜池周辺や真間山の入り口あたり。アトリエから外が見えないだけに、思い入れがあるのかもしれない。

この9月には文化会館で「市川の文化人展」が開かれます。このアトリエで生み出される華麗で優雅な女性像。衣装をまとい、非日常の空間が作りだす神秘的な美しさは永遠に人々の心に残っていくでしょう。